

介護保険事業計画に記載した「取組と目標」等の取組状況及び自己評価結果等（令和5年度分）

市町村名
津山市

◎ 市町村介護保険事業計画に記載した「取組と目標」に関する評価等

1 自立支援、介護予防又は重度化防止に関する取組と目標

分類	項目名	目標(数値等)	実施内容・実績	自己評価	課題、今後の方針等
重度化防止	地域ケア個別会議	開催回数50回	医師が参加可能な月2回で24回開催した。自立支援に寄与できる会議にするため、検討ケースの条件を見直し、担当ケアマネが主体的に事例提供できるようにした。また、生活支援コーディネーターも参加しやすいように圏域を事前に決めて開催した。	月2回で24回開催することができた。生活支援コーディネーターが参加し、社会資源などインフォーマルサービスについて助言や地域課題の把握を図ることができた。しかし、課題は多岐にわたるため、地域課題の整理には至らなかった。	地域課題が多岐にわたるため、継続した地域課題の積み上げが必要である。
介護予防	小地域ケア会議	設置箇所数44箇所	年度末設置数：35箇所	未設置地区の新規立ち上げには至らなかったが、継続的に小地域ケア会議設置について働きかけ、地域での交流会の開催や認知症講座の開催等、地域との関係づくりに取り組んだ。	引き続き未設置地区への働きかけに取り組むとともに、設置地区の内容の充実に向けて検討を行う。
介護予防	医療・介護連携研修会	開催回数4回	市民が、住み慣れた地域でその人らしい生活が人生の最期まで続けることができるように、医療と介護が切れ目なく提供される体制を整備していくため、関係職種との連携、質の向上に係る研修会として、新たにフレイル対策事業（口腔ケア編）を開催した。また、これに合わせて市民への情報提供等にも努めた。 医療・介護連携研修会5回開催。	多職種連携・資質向上を推進するための研修会を実施。市民をはじめ多職種からの声を取り入れて開催したことで、研修回数は目標以上達成することができた。	今後もこれまでの要望・意見を踏まえ、研修会を整理し、更に医療・介護の連携強化を図る。

自立支援	生活支援サポーター養成講座	受講人数80人	未実施:0人 令和4年度より、生活支援サポーター訪問サービス補助金の内容を拡張し、養成講座を行う場合には補助金を加算することにしたが、申請は1団体で、未実施に終わっている。	フォローアップ研修会実施の際に、現在登録中のサポーター193名に意向調査を実施した。サポーターを継続してもよい人が半以下となっており、今後の事業見直しが必要。	8圏域に1つずつあった団体がサポーター事業から撤退し、現在は4法人。事業体制などについて見直し、方向性を検討する。
介護予防	通いの場の支援	こけないからだ講座設置数 227箇所	新規立上げ地区:3箇所 年度末設置数:213箇所	こけないからだ講座は、住民から主体的に新規3箇所が立ち上がった。 既存グループに対しては、年1回の訪問を基本とし、希望内容に沿った訪問支援を行った。  男性高齢者を対象とした野菜づくり講座は、昨年度からの継続参加者に加え新規参加者を募り、月1回の頻度で開催した。また、収穫した野菜を寄付するなど社会貢献へ繋げることができた。	こけないからだ講座では、世話役の高齢化により世話する人がいない、新規参加者が加入しない等で活動休止、廃止するグループがある。  野菜づくり講座では、要支援など虚弱高齢者の参加が少ないため地域包括支援センターと協力しながら参加者を拡げていく。
介護予防	通いの場の支援	ふらっとカフェ設置数 80箇所	新規立上げ:3箇所 年度末設置数:30箇所	新型コロナウイルス感染症の影響が減り、3箇所の新規立上げがあったが、長らく休止していた場所が再開の目途が立たず閉鎖になったこともあり、1箇所増にとどまった。	令和6年度よりふらっとカフェ補助金を設立し、設置数増を図っているが、補助金制度を作成した分「住民主体の運営」という設置の趣旨を理解してもらい啓発活動の手法を検討する必要性が出てきた。
自立支援	認知症の家族の支援	認知症カフェ設置数 6か所	12月18日認知症カフェ交流会を実施。6か所中4か所のカフェ代表者と認知症カフェに興味・関心のある方が集まり、情報交換を行った。参加者25名。関心のある団体を対象に立ち上げ・運営に関する相談支援にも努めている。 年度末設置数:6か所(新規1か所・2か所休止)	各カフェ団体同士が情報交換を行うことで、活動状況や内容を共有し困りごと等を話し合うことができた。また、事務局としても活動状況を把握することができ、カフェ運営の相談支援を継続実施できた。	各カフェ団体の困りごと等を交流会を通して把握することができた。困りごとの一つとして運営側の高齢化等がある。継続して活動・運営ができるように、人材確保等の支援を検討していく。

自立支援	自立支援に関するボランティアの育成	認知症サポーター養成講座受講人数 1,000人	企業、学校、地域の各種団体等幅広い市民を対象とした養成講座を開催し、認知症への正しい理解の普及、ネットワークの拡大を図った。新たな企業からの問い合わせがあり、講座の開催に結びついた。小・中学校に事業拡大を図るため、養護教諭部会に対し講座の説明を行った。 開催:41回 受講人数:841人	目標の受講人数は8割しか達成できなかったが、若い世代(小学校、大学等)への講座が9か所で開催できた。	学校や企業への広報活動を続け、新たな対象への講座を開催し、サポーター以外の認知症の活動へも繋げていく。
自立支援	認知症サポーターステップアップ講座	受講人数 100人	チームオレンジを編成するメンバーとして、認知症サポーター養成講座で学んだことを土台に、実践の場で必要となる認知症に関する知識、身近に交流し必要に応じて手助けするための対応スキル等を習得するために、認知症「オレンジパートナー」養成講座として2回シリーズで開催した。 令和5年度受講人数9人 オレンジパートナー合計25人	目標には届かなかったが、相談援助、対応の実際や、認知症あったか声かけ模擬訓練も取り入れ、より実践に近い形で開催できた。	ステップアップ講座を引き続き開催して、オレンジパートナーを養成していく。認知症本人を中心に、オレンジパートナーとともにチームオレンジを立ち上げていく。

## 2 介護給付の適正化に関する取組と目標

分類	項目名	目標(数値等)	実施内容・実績	自己評価	課題、今後の方針等
給付適正化	要介護認定に係る調査票点検	実施率 100%	5,537件の認定調査全ての調査票点検を実施した。	目標を達成し、適切な介護認定審査に資することができた。	引き続き、全数調査票点検を実施する。
給付適正化	調査員・認定審査会研修	開催回数 6回	2か月に1回程度市の調査員ミーティングを開催し、合わせて調査員研修を実施(5回)。認定審査会委員研修を開催(1回)。	目標回数を達成し、介護認定の適正化を図れた。	引き続き、手法を検討しながら研修会を実施していく。
給付適正化	ケアプラン点検	実施件数 600件	706件点検し、目標値を超えて実施できている。	目標件数を達成し、ケアプラン点検を通して給付適正化に資することができた。	引き続き、自立支援に資するケアマネジメントの実践を目指し、介護支援専門員の「気づき」を促すケアプラン点検に努める。津山市版自立支援の定義を見直し、津山市の目指す自立支援の理念の共有化を図る。
給付適正化	住宅改修の着工前点検	実施率100%	全件について、工事前後の書面等による点検を実施した。	目標を達成し、適切な住宅改修を図ることができた。	引き続き全数調査を実施する。
給付適正化	介護給付費通知	実施率100%	全件について、被保険者に通知した。	目標を達成し、不正請求などの抑止を図ることができた。	令和6年度以降、重点目標から外れることに伴い中止予定。